

平成 28 年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

文化芸術課

1 施設の概要等

施設名	広島県立文化芸術ホール（上野学園ホール）		
所在地	広島市中区白島北町 19-1		
設置目的	県民の文化芸術を鑑賞する機会を提供し、文化芸術の振興を図る。		
施設・設備	ホール（1,730 席）、リハーサル室（3 室）、スタジオ・オーディウム、録画編集室（2 室）、音楽室（2 室）、レストラン		
指定管理者	4 期目	H28. 4. 1～H33. 3. 31	RCCホールマネジメントグループ
	3 期目	H23. 4. 1～H28. 3. 31	RCCホールマネジメントグループ
	2 期目	H20. 4. 1～H23. 3. 31	共立・合人社共同事業体
	1 期目	H19. 4. 1～H20. 3. 31	(財) ゆうちょ財団

2 施設利用状況

利用状況	年度		目標値 [事業計画]	入場者数	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)	
	利用状況	4 期	28	200,000 人	245,737 人	△71,630 人	45,737 人
3 期		27	240,000 人	317,367 人	142,222 人	77,367 人	(132.2%)
		26	240,000 人	175,145 人	△20,859 人	△64,855 人	(73.0%)
		25	260,000 人	196,004 人	△90,761 人	△63,996 人	(75.4%)
		24	290,000 人	286,765 人	116,219 人	△3,235 人	(98.9%)
		23	260,000 人	170,546 人	△90,160 人	△89,454 人	(65.6%)
2 期平均		20～22	320,000 人	260,706 人	23,244 人	△59,294 人	(81.5%)
1 期	19	320,000 人	237,462 人	—	△82,538 人	(74.2%)	
増減理由	入場者について、目標値は達成したが、公演数が減少したため、前年度からは減少した。						

3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	【実施方法】	【対象・人数】
	利用者アンケートの実施	施設利用者・2,314 件
	運営協議会（ヒアリング会）の実施	イベント主催者・2 社
	【主な意見】	【その対応状況】
	トイレの修繕について	修繕を検討中
舞台のインターネット環境改善について	平成 29 年度上期での改善対応予定	

4 県の業務点検等の状況

項目	実績	備考
報告書	年度	○ 事業報告書
	月報	○ 月次業務報告書
	日報（必要随時）	— 緊急を要する事例の発生なし
管理運営会議（2 回・現地）	【特記事項等】 設備の利便性向上について	【指定管理者の意見】 施設利用者の利便性向上に向けた取組が必要 【県の対応】 老朽化が目立つ箇所など優先順位を設けて計画的に修繕に取り組む。
現地調査（9 月、3 月に実施）		

5 県委託料の状況

(単位：千円)

	年度		金額	対前年度増減		年度		金額	対前年度増減
	県委託料 (決算額)	4期	28	—		—	料金収入 (決算額)	4期	28
3期		27	—	—	27	147,947		53,158	
		26	—	—	26	94,789		3,293	
		25	—	—	25	91,496		△54,933	
		24	—	—	24	146,429		52,216	
		23	—	—	23	94,213		△26,132	
2期平均		20~22	—	皆減	2期平均	20~22		120,345	20,004
1期		19	26,704	—	1期	19		100,341	—

6 管理経費の状況

(単位：千円)

項目		H28 決算額	H27 決算額	前年度差	主な増減理由等	
委託事業	収入	県委託料	0	0	0	利用料金収入等で運営
		料金収入	89,043	147,947	△58,904	利用料金制(※1) H28はH27に開催した劇団四季のロングラン公演がない年のため料金収入減
		その他収入	39,934	55,683	△15,749	減免負担金の減
		計(A)	128,977	203,630	△74,653	
	支出	人件費	30,927	29,863	1,064	職員追加による増
		光熱水費	30,436	38,595	△8,159	ホール利用減による経費減
		設備等保守点検費	25,359	24,959	400	
		清掃・警備費等	14,802	18,499	△3,697	ホール利用減による経費減
		施設維持修繕費	8,397	22,023	△13,626	修繕対象箇所への減
		事務局費	16,485	29,128	△12,643	事務経費の減
その他		28,399	33,973	△5,574	レストラン収入の減	
計(B)	154,805	197,040	△42,235			
	収支①(A-B)	△25,828	6,590	△32,418		
自主事業 (※2)	収入(C)	11,599	8,714	2,885	イベント数の増加に伴う収入と支出の増	
	支出(D)	8,041	5,600	2,441		
	収支②(C-D)	3,558	3,114	444		
合計収支(①+②)		△22,270	9,704	△31,974		

※1 利用料金制：公の施設の使用料について、指定管理者が直接使用料等を収入することができる制度。指定管理者の自主的な経営努力を発揮しやすくする効果が期待され、地方公共団体及び指定管理者の会計事務の効率化が図られる。

※2 自主事業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

7 管理運営状況

項目		指定管理者 (事業計画, 主な取組, 新たな取組など)	県の評価
施設の効用発揮	○施設の設置目的に沿った業務実績	優れた文化芸術の誘致を行ったほか、神楽や音楽祭、カルチャー教室などの自主事業を積極的に行った。また、近隣住民との交流を目的とした産直市やミニフードフェスティバルを開催した。	文化芸術の振興に向け、多種多様な催し物の実施により、幅広い世代に鑑賞の機会を提供した。
	○業務の実施による、県民サービスの向上	アンケートやヒアリング会等の意見を踏まえ、施設内の危険個所の解消に取り組むなど、利用者へ提供するサービスの見直しと改善に努めた。	利用者の意見の把握に積極的に努めており、把握した内容を実行に移している。
	○業務の実施による、施設の利用促進	駅に広告看板を出稿しホール利用だけでなく貸室の利用促進を図った。また、催し物のチラシの裏面に、会議やサークル等での利用が可能であることを知らせる PR 広告を載せ、施設の認知度アップに努めた。	施設の利用促進や認知度向上に向け多角的に取り組んだ。
	○施設の維持管理	施設が老朽化しており、計画的に修繕を行った。	ホール客席椅子の修繕等、利用者目線に立った施設の維持管理を実施した。
管理の人的物的基礎	○組織体制の見直し ○効率的な業務運営	月次の運営会議により業務の洗い出しを行い、利用者のニーズに合った運営やサービス向上、利用率アップのための営業方法などのアイデアを協議した。	利用者目線での運営の見直し・改善に取り組んだ。
	○収支の適正	収支は赤字となったが、貸室利用は年々増加している。自主事業については黒字を維持した。	施設の利用率の向上に向け取り組んだ。今後は、施設全体としての収支の適正化が必要である。
総括		これまでの指定管理運営で培ったノウハウを生かして、適切な修繕を行い、利用者が満足できるサービスを提供する運営を実施した。 今後もホームページや広告、マスコミ等を活用した PR 活動を積極的に行い、利用率向上を図るとともに、省エネ対策等の経費節減にも努め、施設の安全や長寿命化を目指した管理運営を実施する。	様々な催し物を開催するなど、文化の振興に努めるとともに、施設の利用者増に向けた広報活動等の様々な取り組みの実施により、目標値を達成した。

8 今後の方向性（課題と対応）

項目	指定管理者	県
短期的な対応 (平成 29 年度)	ロングラン公演による定期利用者離れを防ぐための対策を実施する。	施設の利用促進に向けて広報面等で指定管理者を支援していく。
中期的な対応	施設の老朽化によって利用者の利便性を損なわない様、計画的に修繕を実施していく。	利用者目線での施設の修繕を指定管理者と連携しながら計画的に実施する。